

金沢市のリニア対応

金沢市「新幹線延伸・リニア開業影響対策行動計画」をみる

～リニアを見越した対応・新幹線のまちづくりは～

石川県金沢市は、令和2年2月に「新幹線延伸・リニア開業影響対策行動計画 北陸新幹線敦賀延伸・リニア中央新幹線名古屋開業に向けて」（以下報告書）を発表した。「令和5年（2023年）の北陸新幹線敦賀開業や、令和9年（2027年）のリニア中央新幹線名古屋開業」（報告書）がもたらす影響を踏まえ、「各種施策を整理し、行動計画としてとりまとめ」（同）ている。

1. 敦賀延伸はプラス・マイナス両面あり

北陸新幹線開通により「独り勝ち」と言われる金沢市であるが、平成27年の北陸新幹線金沢開業により生じたプラス効果とマイナス効果を検証するため、平成29年に「北陸新幹線開業による影響検証会議」を開催し、プラス効果の拡大とマイナス効果の解消に向けた施策を検討し取り組んできた。そして今般は、北陸新幹線敦賀延伸、リニア中央新幹線開業に向けた影響評価と対応策を検討している。

北陸新幹線敦賀延伸による影響は、報告書は基本的事項として、

- ① 関西圏、中京圏などへの時間短縮効果、但し敦賀駅で乗り換えが発生（関西・中京圏からの直通特急が廃止）。人流への影響は列車運行形態、運賃水準などで変化する。
 - ② 小松空港の国内線利用客が減少。便数の減少があれば、羽田空港を介した国際的ネットワーク接続に影響
 - ③（中京圏からの直通特急が廃止されることにより）乗り継ぎによる利便性低下から中京圏へ高速バスの需要増加が見込まれる。
 - ④ 敦賀延伸後は、北陸新幹線の運行障害時のリダンダンシー（代替補完性）の確保がこれまで以上に求められる（在来線の直通特急が廃止され、新幹線依存の交通体系となることを懸念）。（報告書を要約）
- としている。

2. リニア沿線地域との競争を懸念

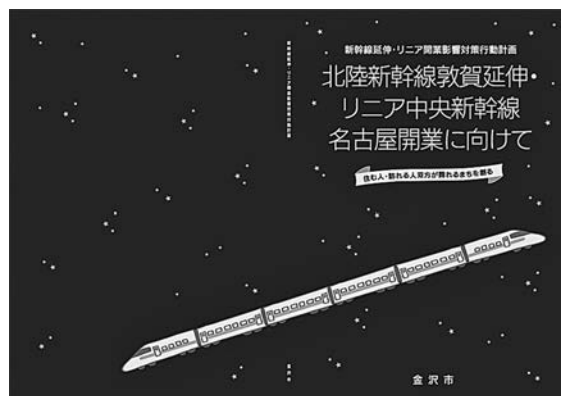
リニア中央新幹線開業に際しては、前項の敦賀延伸による影響に加えて、として、

- ① 金沢とリニア中間駅地域との間の時間的距離が短縮。
- ② 首都圏と中京圏の結びつきが密となり、都市と都市、都市と地方がつながったビジネススタイル・ライフスタイルが生じ、全国に浸透していく可能性がある。
- ③ 首都圏－中京圏の移動時時間の短縮により、広域的に流動する観光客の増加、金沢への呼び込める可能性が広がる。
- ④ 首都圏から名古屋以西・以南への時間距離が大幅に短縮され、観光・MICEの候補地について、新たな都市間競争が発生。
- ⑤ 中京圏住民の観光ニーズが首都圏に向き、北陸圏が中京圏からの鉄道利用の誘客に影響
- ⑥ 名古屋の都市開発が進み、都市機能の集積が加速すると見込まれ、北陸圏の企業のが中京圏を対象とした経済行動を強化、中京圏への人口流出の恐れがある。（報告書を要約）

が挙げられている。北陸圏がリニア沿線地域との時間距離短縮による人の呼び込みに期待する面と、リニア沿線地域（とりわ



JR金沢駅



「北陸新幹線敦賀延伸・リニア開業影響対策行動計画」報告書（金沢市HP）

け中京圏)の吸引力アップ(北陸圏の相対的地盤沈下)を懸念するものとなっている。北陸圏にとっての脅威はリニア沿線地域にとっての強みなりアドバンテージとなるだろう。いずれにしるリニア沿線以外の地域で、早くもリニア新幹線開業を見据えての対応を視野に入れているところがあることに注目したい。

3. 新幹線を巡るまちづくりは

報告書は、この後具体的取組事項が提案されている。紙面の都合上全部を紹介できないが、その眼目は「金沢をよりブラッシュアップする」ということになると思われる。

金沢と飯田を比べて論じるのは余りにも無謀とのそしりは免れないが、参考になる点がある。金沢駅は在来線併設駅ではあるが、中心市街地と距離(約2 km)がある。新幹線開業後、駅周辺の賑わいが顕著で、旧来の繁華街であった片町・香林坊地区の相対的地盤沈下が指摘されており、新幹線駅と離れる(約4 km)ことになる当市としても気になるところである。

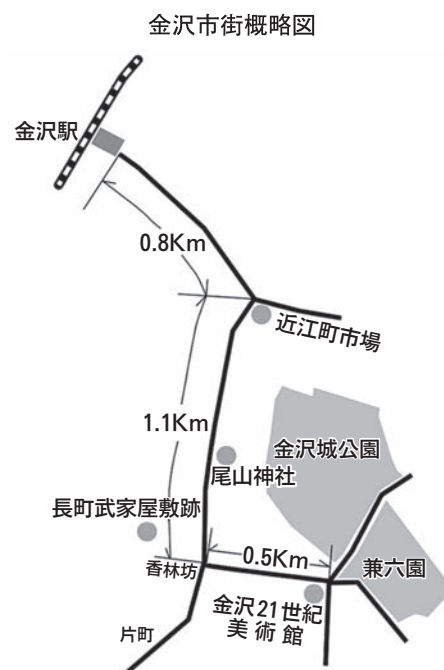
ところが金沢と飯田の街では異なる面がある、金沢の街は新幹線駅から市中心部まで意外と歩いてしまう。一つは駅から中心部まで高低差が僅かなこと、もう一つは金沢を代表する有名観光スポットが駅から中心部にかけて点在しており、それらを巡っているうちに中心部に至ること。飯田はそうはいかない。金沢駅から市中心部への公共交通機関は路線バス(各方面路線が香林坊を経由して行くため、数分間隔)とタクシーだが、飯田はどうするか。

中心市街地への流れをつくるには、訪問する動機付けとなるものが必要となる。金沢では新幹線開業を見据え、早くから取り組まれてきた。金沢城の公園化(構想は1970年代から)、県庁の移転・公園化、金沢21世紀美術館の開館など思いっくまに挙げられる。金沢市が平成24年2月に策定した「北陸新幹線開業に向けて ～金沢魅力発信行動計画～」では、方向性として、

- ①国内外から多くの人々が来街したくなるような”魅力あるまち“をつくる
- ②”まちの賑わいを創出する“こと
- ③”便利で移動しやすいまち“にすること
- ④以上のまちの”魅力を発信“すること
- ⑤市民との協働による”もてなし力の向上“

をまず第一に掲げ、具体的施策に言及している。参考にできるのではない。

もう一つ、「まちづくりは新幹線が通ってからやればよい」という声をたまに聞くことがあるが、富山市は新交通システムの「富山ライトレール」など駅周辺整備が新幹線開業に間に合わず、「金沢独り勝ち」の要因の一つとなったといわれている。新幹線開業を目指した(間に合わせた)周到な準備が肝要であることを示している。



金沢城公園



長町武家屋敷跡

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)